

街道 いまむかし

<26>

下郷町

(福島県)

松川街道

栃木県さくら市—会津若松市



築200年以上とされるかやぶきの家。戊辰戦争の焼き打ちでも被害に遭わず、歴史街道の名残をとめている。福島県下郷町野際新田

参勤交代に利用

南会津を南下して那須岳などの栃木県境の山あいを抜け、宇都宮の北方、栃木県さくら市で奥州街道につながる街道が今回訪ねたルートだ。県境付近は千八百、千九百級の山々がそびえ、地図を見ると、山塊に抱かれて三斗小屋温泉など

の温泉も数多くある。

福島県側は下郷町が那須の連山に接し、県境に最も近いのが大松川の集落だ。

「どうしてここが街道？」。案内の標識や看板がうたう「松川街道（会津中街道）」を大松川から県境

方向に歩き始めたが、途中から農作業用の道になって

いたり、森に入ると獣道の

戊辰戦争の傷跡刻む

地域の宝発掘 意気込む住民

よつであつたりと「街道」の名のイメージからはかけ離れたばかりだった。

だが、一時期は主街道として会津藩が参勤交代にも使った。福島県史などにも紹介されている。いっしょとした街道の跡なのだ。

会津若松市を北の起点とする延長約百二十キロに及ぶ松川街道。実は、大内宿や五十里村（現在の日光市）を経由して奥州街道に至る下野（しもつけ）街道の代替路としてデビューした。

この辺の事情を「松川街道交流会」の事務局長で南会津町針生小学校長の佐藤淳二さん（58）はこう話す。

「一六八三年、五十里村で地震による山の崩落があつた。川がせき止められて湖ができ、五十里村宿場は下野街道もとも、せき止め湖の下に沈んだ」

こうして代わりの街道が必要となり、江戸への最短ルートを取って急ぎ、松川街道が整備された。

ところが「最短」の分、地形的な無理があり、冬場は積雪のため通行が閉ざされた上、一六九九年の風雨被害で復旧が困難なほどのダメージを受ける。一方の

下野街道は、せき止め湖の舟運が盛んになり、通行量も徐々に戻っていった。

松川街道が主街道の役割を担ったのは八百年くらいか、というのが地元関係者の見方。だが、それでも

会津藩の参勤交代には記録上三回は使われている（佐藤さん）という。

裏庭に大砲の弾

栃木県境まであと一丁足

らすの野際新田地区に住む星政信さん（58）の方では、こんな話も聞いた。

前出の三斗小屋温泉近くにはかつて宿場があり、戊辰戦争の際、会津藩などの幕府軍が官軍を待ち伏せし、両軍が激突した。官軍の攻勢の前に幕府軍は逃げ

るはかなく、十軒ほどあつた野際新田の宿場も官軍の焼き打ちに遭った。このとき三軒が焼けなくて済み、今も一軒だけ残っているのが星さん方だという。

「六十年前のこと、裏庭から直径十五センチもある大砲の弾が出てきたことがあつた。三年前は、やりの刃を見つけた」と星さん。築二百年以上になるという星さん方のかやぶき屋根が歴史の重みを感じさせ

た。

標識や看板整備
主街道の名残をとめ、幕末の時代の姿遷をも見せた松川街道の価値をもっと見直すべきではないか。

標識や看板はそんな大松川地区の住民の声を受けて町が助成金を出し、実現したものであつた。交流会などが毎年秋に行っている「松川街道ウォーキング・自然観察会」は、今年は十月二十六日に開催される。

佐藤事務局長は「地域の宝は掘り起こさないと見つからない。街道の魅力を伝えることで、地域を大切にすることが養われたらうれしい」と意気込む。街道に埋もれた宝を見つける活動は、これから本格化する。

生活文化部・目黒光彦
写真部・安部孝広
次回掲載は、10月3日の予定です



行ってみよう

観音沼 松川街道のルート近くの景勝地。約1万7000年前、観音山の山体崩壊に伴う岩屑（がんせつ）雪崩で広大な沼地ができ、沼が形成された。面積約8畧。周囲約1.2キロには9本の遊歩道が整備されている。中央部には泥炭層とミツガシワの根の浮島があり、約20種の湿原植物が生息する。会津鉄道養鱒公園駅から車で15分。下郷町商工観光係0241（69）1144。